

令和6年度委員長所信表明



全日本教職員連盟 第16代委員長 渡辺 陽平

魅力溢れる教育環境の実現を

全日教連並びに教文研会員の皆様におかれましては、大きな希望を胸に、令和6年度を迎えたことと存じます。この度、各単位団体の御信任を賜り、第16代全日教連委員長の大役を仰せつかることになりました。役員一同、力を合わせて会員の皆様のために、そして我が国の未来を担う子供たちのために、全力をあげて職務に当たる所存であります。どうぞ、よろしく願いいたします。

全日教連・教文研は今年2月に40周年という大きな節目を迎えました。記念躍進大会に御参加いただいた先輩諸氏の全日教連への熱い思いに触れ「美しい日本人の心を育てる」という理念のもと、初心を忘れることなく誇り高い教育専門職としての矜持をもって邁進しなくてはならないとの思いを強くしたところです。また、会員の皆様からは、学校現場において、日々子供たちに情熱をもって向き合い、奮闘している様子を伺うことができました。深く感謝申し上げます。

全日教連は、学校現場の立場から、国民の負託に応える教育を確立するために以下の点を今年度の活動の重点とします。

【要望・提言活動の充実】

令和5年度の全日教連は、国会議員や関係省庁に対し、要請行動を行い多くの要望が結実しました。

令和6年度予算が3月28日に成立し、平成23年以来の教職員定数の純増となる5,660人の改善が図られました。また、教員業務支援員全小中学校配置のための28,100人や新たに創設された副校長・教頭マネジメント支援員の配置(1,000人)が実現しました。これらは、全日教連がこれまで強く求めてきた教職員の業務改善に直結する学校現場の人員増であり、これまでの要望内容が反映された結果です。また、GIGAスクール構想に係る1人1台端末の更新等の費用は、令和5年度補正予算案において、公立学校の端末整備に2,643億円が計上されることにより予算確保が実現しました。都道府県に総額2,643億円

の基金を造成し、5年程度かけて端末を計画的に更新するとともに、予備機や入出力支援装置の整備も支援する等の内容であり、国費での端末更新を求めてきた全日教連の要望通りとなりました。更に、学校現場において負担となっているFAXでのやり取りや押印等についてのデジタル化を継続的に求めたことが「デジタル行財政改革会議」で取り上げられ、令和7年度中には原則廃止する方針となりました。

一方で、教職の魅力向上のための処遇改善における「管理職手当」や「主任手当」等の各手当の改善については、法改正を伴わない処遇改善として期待していましたが、大臣折衝において「来年度、引き続き折衝を行い整理すること」となりました。引き続き、中教審の議論を注視しながら、教職調整額の引上げを含む「給特法」の改正を視野に入れた処遇改善について、働き方改革の推進と合わせて強く要望を続け、必ず実現させなければなりません。

全日教連は、これからも、児童生徒のより良い教育環境を実現するため、引き続き十分な教育予算が確保されるよう、会員の皆様の声を反映させながら、関係省庁や国会議員へ粘り強く求めてまいります。

【組織の強化・拡大】

児童生徒数の減少に伴う教職員数の減少や組織離れ等が進み、今後の組織率の低下が懸念されます。全日教連は我が国の教育正常化を目指す教職員団体であり、これまでの全日教連に集う皆様の真摯な取組が各方面から高い評価を得ています。日本の教育の発展のためには、各单位団体と連携し組織の強化・拡大に努め、一人でも多くの同志の力を結集させなければなりません。また、未組織地域に対しては「美しい日本人の心を育てる」教育を全国の教育現場へ広げるため、あらゆる機会を捉えて情報交換を密に行い、組織拡大につなげていきます。

【質の高い研修の充実】

現代社会は、生成AI技術の発達やDXの進展等、将来の予測が非常に困難な「VUCA」の時代とされています。また、昨年度の文部科学省の調査結果から、令和5年度の不登校者数が29万9,048人となり、また小中高校等で認知されたいじめ件数も68万1,948人と過去最多となりました。労働者ではなく教育専門職である我々教職員は、不登校やいじめ、その他様々な教育課題の改善に努めるとともに、このような予測が困難な社会を生きる子供たちに、自らの意思により主体的に社会を創り出していく力を身に付けさせることが求められています。我々全日教連は、1人1人の子供たちにしっかりと寄り添い、自らの職責を深く認識し、専門性を高めるとともに人間性を磨くために、常に研鑽に励む姿勢を示し、自らの資質・能力の向上に努めなければなりません。そのために各種研修会において校種や職種等を超えて共に学び合い、研鑽を積

むことができる研修の場を提供します。特に第 41 回教育研究全国大会（山口大会）では、大会主題を「主体的に社会を形成し未来を切り拓く力を育む教育実践～豊かな人間関係の中で学び合い高め合う子供の育成を通して～」とし、各分科会での実践発表と研究協議、助言者による指導等を通して、学校教育のあるべき姿、そして向かうべき方向を示し、参加者 1 人 1 人がそれぞれの立場で研究を深め、学校現場で生かせるよう万全の準備を整えていきます。

結成から 41 年目を迎え、私たち役員一同は、日本の未来を担う子供たちのために、また学校現場において子供たちに直接携わる教職員が教育専門職としての自信と誇りをもって職務に邁進できるように活動を推進してまいります。全日教連並びに教文研会員の皆様と手を携え、教職員としての矜持をもち、共に邁進していこうではありませんか。

令和 6 年度も、会員の皆様の御理解と御支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

令和 6 年 4 月 1 日